



北見工業大学

学報

平成16年 9 月 事務局総務企画課発行 第205号

国際ワークショップ

International Workshop on Modern Science and Technology 2004 開催



(関連記事12ページに掲載)

Kitami Institute of Technology

目 次

学位記授与式	平成16年度9月期学位記授与式挙行	4
入 試	平成16年度秋季及び平成17年度大学院入学試験の実施	4
研究助成	平成16年度文部科学省「海外先進教育研究実践支援プログラム」採択決定	5
	平成16年度ノーステック財団「研究開発助成事業」補助金交付決定	5
	平成16年度民間等との共同研究の受入状況	5
	平成16年度受託研究の受入状況	6
	平成16年度奨学寄附金の受入状況	6
人 事	人事異動	7
	新任者紹介	7
	海外渡航	9
研 修	平成16年度北見工業大学技術部技術員研修	11
	平成16年度国立大学法人北見工業大学職員研修	11
	平成16年度北見工業大学職員英会話研修	12
国際交流	国際ワークショップ IWMST 2004を開催	12
	慶尚大学校工科大学との短期交流研修報告	13
	2004年日本留学フェア（大韓民国）参加報告	16
	2004年外国人学生のための進学説明会に参加して	18
諸 報	学長選考会議を設置	19
	全学説明会「法人後6ヶ月と大学が目指す目標の共有を」の開催	20
	平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）の採択	20
	大学等開放推進事業「おもしろ科学実験」を実施	22
	科学研究費補助金説明会を開催	23
	知的財産セミナーを開催	23
	平成15年度「ベストティーチング賞」・「エクセレントプログラム賞」 表彰式を挙行	24
	地元高校とSPP事業を継続実施	25
	父母懇談会（秋季・名古屋）を開催	25
	北海道進学コンソーシアム大学進学説明会を開催	26
	北友会主催スポーツ大会・夏祭り	26
規 程	北見工業大学工学部核燃料物質計量管理規程（北工大達第169号）	28
	北見工業大学教務委員会規程の一部を改正する規程（北工大達第170号）	29
	北見工業大学学生委員会規程の一部を改正する規程（北工大達第171号）	30

北見工業大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程 (北工大達第172号)	30
国立大学法人北見工業大学学長選考会議規程 (北工大達第173号)	31
国立大学法人北見工業大学学長選考規程 (北工大達第174号)	32
国立大学法人北見工業大学役員給与規程の一部を改正する規程 (北工大達第175号)	34
日誌 8月・9月	35

人事異動については10月1日異動分まで、民間等との共同研究、受託研究
及び奨学寄附金の受入状況については10月6日分まで掲載しました。

= 学位記授与式 =

平成16年度9月期学位記授与式挙行

(総務企画課)

平成16年度9月期学位記授与式が、9月17日(金)午前9時30分から、学長室で行われました。

今回の授与対象者は、大学院工学研究科博士後期課程システム工学専攻修了者 張 一憲氏及び論文博士 山崎 智之氏の2名で、理事、副学長等が列席する中、常本学長から学位記が授与されました。



= 入試 =

平成16年度秋季及び平成17年度大学院入学試験の実施

(入 試 課)

平成16年度秋季及び平成17年度大学院入学試験が、8月23日(月)～25日(水)に実施されました。

課程別専攻別の合格者数等は次表のとおりです。

(単位：人)

平成16年度(秋季)博士前期課程(一般選抜)

専攻名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	若干人	0	0	0
電気電子工学専攻		1	1	1
情報システム工学専攻		0	0	0
化学システム工学専攻		0	0	0
機能材料工学専攻		0	0	0
土木開発工学専攻		2	2	2
合計		3	3	3

平成16年度(秋季)博士前期課程 (外国人留学生特別選抜)

専攻名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	若干人	0	0	0
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		1	1	1
化学システム工学専攻		0	0	0
機能材料工学専攻		0	0	0
土木開発工学専攻		1	1	1
合計		2	2	2

平成16年度(秋季)博士後期課程(社会人選抜)

専攻名	定員	志願者	合格者
システム工学専攻	若干人	1	1
物質工学専攻		0	0
合計		1	1

平成17年度博士前期課程(一般選抜)

専攻名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	16	30	30	20
電気電子工学専攻	16	18	18	14
情報システム工学専攻	16	11	11	10
化学システム工学専攻	14	16	16	13
機能材料工学専攻	10	17	14	14
土木開発工学専攻	20	22	20	18
合計	92	114	109	89

平成17年度博士後期課程
(外国人留学生特別選抜)

専攻名	定員	志願者	合格者
システム工学専攻	7	1	1
物質工学専攻	5	0	0
合計	12	1	1

= 研究助成 =

平成16年度文部科学省「海外先進教育研究実践支援プログラム」採択決定
(研究協力課)

所属	職名	氏名	取組名称	派遣先国	期間
機能材料工学科	助教授	阿部 良夫	再生可能エネルギーの先端的教育と材料開発	アメリカ合衆国	17.2.1 ～17.12.1
土木開発工学科	助教授	宮森 保紀	米国の工学教育システム運用方法について	アメリカ合衆国	17.3.25 ～18.2.20

平成16年度ノーステック財団「研究開発助成事業」補助金交付決定
(研究協力課)

所属	職名	氏名	研究課題	交付金額
化学システム工学科	助手	服部 和幸	超分子構造を利用した高強度・高弾性率を有する新規セルローズ繊維の開発	千円 400
土木開発工学科	助手	白川 龍生	第二世代ウェーブレット変換を用いた舗装予防保全システムの開発	395
サテライトベンチャー・ビジネスラボラトリー	非常勤研究員	上條万二郎	道産農水産物由来のプレバイオティクス食素材評価技術開発	400

平成16年度民間等との共同研究の受入状況

平成16年10月6日現在

(研究協力課)

所属	職名	研究代表者	研究題目	民間機関等名
機械システム工学科	教授	二俣 正美	光触媒作用を有する酸化チタン皮膜の作製	社団法人北見工業技術センター運営協会
機械システム工学科	教授	二俣 正美	ナノカーボン分散型複合被膜作製技術の開発	株式会社倉本鉄工所

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	助 手	中村 大	幌延深層地層研究計画における試錐調査	株式会社ドーコン
土木開発工学科	助教授	川村 彰	路面評価に関する共同研究	日本道路公団 試験研究所
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	原料由来によるコンポストの農地利用に関する調査研究	社団法人北見工業技術センター運営協会
国際交流センター	教 授	山岸 喬	オホーツク産食素材より高機能食品の創出	(株)はるにれバイオ研究所
機械システム工学科	助教授	松村 昌典	住宅用24時間換気システムにおける研究	エア・ウォーター・エモト(株)
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	寒冷地コンクリート構造物の施工品質向上と統合的評価システムの検討	(株) 西 村 組

平成16年度累計 68件

平成16年度受託研究の受入状況

平成16年10月6日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目 及 び 研 究 期 間	委託機関	所要経費
化学システム工学科	教 授	吉田 孝	「木タールを中心としたゼロエミッション型産業の創生」 平成16年9月～平成17年3月	(社)北見工業 技術センター 運 営 協 会	円 3,009,300
	教 授	鈴木 勉			
	助 手	服部 和幸			

平成16年度累計 4件

平成16年度奨学寄附金の受入状況

平成16年10月6日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
	学 長	常本 秀幸	北見工業大学における学術振興・国際交流等事業に対する助成のため	北見工業大学学術振興・国際交流等事業を支援する会	円 1,611,500
土木開発工学科	教 授	森 訓保	岩石の力学特性に関する基礎的研究	(株)中神土木設計事務所	42,000
土木開発工学科	教 授	鮎田 耕一	奨学研究費	北海道土木技術会 コンクリート研究委員会	80,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	RC床版の疲労耐久性の検討	株式会社近代 設計札幌支社	500,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	橋梁の維持点検と補修検討の研究 に対する研究助成	東邦コンサルタント 株 式 会 社	700,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	工学研究のため	株式会社ドーコン	1,000,000
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	汚泥の生物分解技術に関する技術 指導	栗田工業株式会社	800,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	配電用がいし類の塩雪害および絶縁特性に関する研究のため	北海道電力(株) 総 合 研 究 所	1,000,000

平成16年度累計 54件

=人事=

人 事 異 動

(総務企画課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	異 動 内 容
16. 8. 31	情報図書課専門職員	吉 田 愛 子	辞職
"	機能材料工学科助手	張 強 斌	辞職
16. 9. 1	(新規採用)	白 鳥 善 裕	財務課契約係
"	(新規採用)	田 畑 潤 司	教務課修学指導係
16. 9. 30	情報処理センター助手	嘉 田 勝	辞職
16. 10. 1	機能材料工学科助手	石 川 和 宏	機能材料工学科助教授 (任期:平成21年9月30日まで)
"	機能材料工学科助手	川 村 み どり	機能材料工学科助教授 (任期:平成21年9月30日まで)
"	機能材料工学科助手	村 田 美 樹	機能材料工学科助教授 (任期:平成21年9月30日まで)
"	北海道大学大学院情報 科学研究科助教授	辻 寧 英	電気電子工学科助教授 (任期:平成21年9月30日まで)
"	(新規採用)	升 井 洋 志	情報処理センター助教授 (任期:平成21年9月30日まで)

新 任 者 紹 介

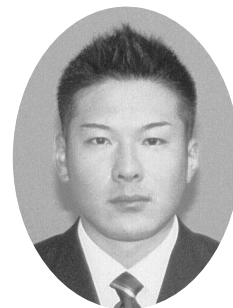
○財務課事務職員に ^{しらとり}白鳥 ^{よしひろ}善裕 氏

- 昭54. 4. 24生
 平14. 3 北海道大学経済学部卒業
 16. 6 北海道地区国立大学法人等
 職員採用第一次試験合格 (事務)
 16. 9 北見工業大学財務課

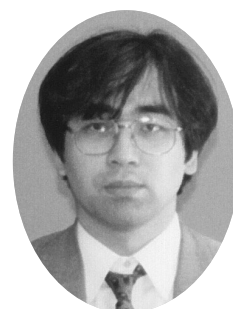


○教務課事務職員に ^{たばた}田畑 ^{じゅんじ}潤司 氏

- 昭56. 3. 30生
 平16. 3 北星学園大学社会福祉学部卒業
 16. 6 北海道地区国立大学法人等
 職員採用第一次試験合格（事務）
 16. 9 北見工業大学教務課

○電気電子工学科助教授に ^{つし}辻 ^{やすひで}寧英 氏

- 昭42. 12. 31生
 平 8. 3 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
 8. 3 博士（工学）（北海道大学）
 8. 4 北海道工業大学助手
 8. 10 " 講師
 9. 8 北海道大学大学院工学研究科助教授
 16. 4 " 大学院情報科学研究科助教授
 16. 10 北見工業大学工学部電気電子工学科助教授

○情報処理センター助教授に ^{ますい}升井 ^{ひろし}洋志 氏

- 昭45. 8. 22生
 平10. 3 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了
 10. 3 博士（理学）（大阪大学）
 10. 3 大阪大学大学院理学研究科研究生
 10. 10 北海道大学大学院工学研究科講師（中核の研究機関研究員）
 12. 11 南アフリカ大学博士研究員
 13. 1 台湾中央研究院 "
 13. 4 日本学術振興会特別研究員
 16. 4 独立行政法人理化学研究所基礎科学特別研究員
 16. 10 北見工業大学情報処理センター助教授



海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
共 通 講 座	助 教 授	鳴 島 史 之	国際学会にて研究発表 (アメリカ合衆国)	16.8.1 ～16.8.7
共 通 講 座	助 教 授	柳 等	国際スポーツバイオメカニズム学会参加 及び研究打合せ (アメリカ合衆国・カナダ連邦)	16.8.1 ～16.8.30
機械システム工学科	助 教 授	閻 紀 旺	高压相転移に関するワークショップにて 講演及び研究打合せ (アメリカ合衆国)	16.8.14 ～16.8.22
未利用エネルギー 研究センター	教 授	庄 子 仁	西太平洋地球物理学会議にて論文発表 (アメリカ合衆国)	16.8.15 ～16.8.21
土木開発工学科	教 授	鈴 木 輝 之	第7回アジア熱物性会議にて研究発表 (中華人民共和国)	16.8.22 ～16.9.1
化学システム工学科	教 授	青 山 政 和	中国科学院昆明植物研究所にて調査及び 研究打合せ (中華人民共和国)	16.8.23 ～16.8.28
土木開発工学科	教 授	大 島 俊 之	慶尚大学校工科大学との短期交流 (大韓民国)	16.8.23 ～16.8.30
研究協力課	事務職員	栄 浪 晋 也	慶尚大学校工科大学との短期交流 (大韓民国)	16.8.23 ～16.8.30
共 通 講 座	教 授	照 井 日出喜	現代ドイツの演劇状況に関する芸術社会 学的研究 (オーストリア共和国・ドイツ連邦共和国)	16.8.27 ～16.9.28
化学システム工学科	教 授	鈴 木 勉	Science in Thermal & Chemical Biomass Conversionにて研究発表 (カナダ連邦)	16.8.29 ～16.9.4
電気電子工学科	教 授	谷 藤 忠 敏	Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Societyにて研究発表 (アメリカ合衆国)	16.8.31 ～16.9.6
情報システム工学科	助 教 授	榮 坂 俊 雄	IEEE Conference on Control Applications International Symposium on Intelligent Control Computer Aided Control System Designにて研究発表 (台湾)	16.9.1 ～16.9.5
電気電子工学科	教 授	田 村 淳 二	電気機械に関する国際会議にて研究発表 及び風力発電調査 (ポーランド共和国)	16.9.3 ～16.9.10
電気電子工学科	助 教 授	村 田 年 昭	電気機械に関する国際会議にて研究発表 (ポーランド共和国)	16.9.3 ～16.9.10
電気電子工学科	教務職員	高 橋 理 音	電気機械に関する国際会議にて研究発表 (ポーランド共和国)	16.9.3 ～16.9.10
機能材料工学科	教 授	青 木 清	Metal-Hydrogen Systemsにて講演 (ポーランド共和国)	16.9.4 ～16.9.12

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	助 手	石 川 和 宏	Metal-Hydrogen Systemsにて研究発表 (ポーランド共和国)	16.9.4 ～16.9.13
土木開発工学科	教 授	大 島 俊 之	JICA専門家派遣技術協力 (キルギス共和国)	16.9.5 ～16.9.18
土木開発工学科	助 教 授	伊 藤 陽 司	JICA専門家派遣技術協力 (キルギス共和国)	16.9.5 ～16.9.18
国際交流センター	教 授	山 岸 喬	JICA専門家派遣技術協力 (キルギス共和国)	16.9.5 ～16.9.18
土木開発工学科	助 教 授	川 村 彰	ドライビングシミュレーションに関する 国際会議にて研究発表 (フランス共和国)	16.9.7 ～16.9.12
情報システム工学科	助 教 授	渡 辺 文 彦	韓国高等科学院にて研究打合せ (大韓民国)	16.9.7 ～16.9.13
情報システム工学科	教 授	鈴 木 正 清	日本留学フェア参加 (大韓民国)	16.9.9 ～16.9.13
国際交流センター	講 師	荒 谷 陽 子	日本留学フェア参加 (大韓民国)	16.9.9 ～16.9.13
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	海氷研究に関する打合せ及び地球科学と リモートセンシングに関する国際シンポ ジウムにて研究発表 (アメリカ合衆国)	16.9.13 ～16.9.26
土木開発工学科	助 手	館 山 一 孝	地球科学とリモートセンシングに関する 国際シンポジウムにて研究発表 (アメリカ合衆国)	16.9.16 ～16.9.26
土木開発工学科	助 教 授	山 下 聡	地盤の特殊化に関する国際会議にて講演 (ポルトガル共和国)	16.9.18 ～16.9.24
土木開発工学科	教 授	海老江 邦 雄	第4回世界水会議及び展示会に出席 (モロッコ王国)	16.9.18 ～16.9.26
技 術 部	技 術 員	輪 島 秀 則	第4回世界水会議及び展示会に出席 (モロッコ王国)	16.9.18 ～16.9.26
化学システム工学科	教 授	吉 田 孝	雲南大学にて天然資源の研究打合せ (中華人民共和国)	16.9.20 ～16.9.24
土木開発工学科	教 授	大 島 俊 之	国際会議にて講演 (カナダ連邦)	16.9.21 ～16.9.25
土木開発工学科	助 教 授	三 上 修 一	IABSE2004シンポジウム参加 (中華人民共和国)	16.9.21 ～16.9.25
土木開発工学科	教 授	内 島 邦 秀	西安理工大学にて水理・水文学に関する 研究打合せ (中華人民共和国)	16.9.29 ～16.10.3
土木開発工学科	助 教 授	早 川 博	西安理工大学にて水理・水文学に関する 研究打合せ (中華人民共和国)	16.9.29 ～16.10.3
土木開発工学科	助 手	中 尾 隆 志	西安理工大学にて水理・水文学に関する 研究打合せ (中華人民共和国)	16.9.29 ～16.10.3

○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	助 教 授	阿 部 良 夫	第6回エレクトロクロミズム国際会議にて論文発表 (チェコ共和国)	16.8.27 ~16.9.5

= 研修 =

平成16年度北見工業大学技術部技術員研修

(総務企画課)

平成16年度北見工業大学技術部技術員研修が8月19日(木)から8月20日(金)までの2日間にわたりSCS教室及びA103教室等を会場に実施されました。

この研修は、技術員の職務に関する必要な知識等を広く修得させ、資質の向上を図ることを目的として実施され、技術員38名(全員)が受講しました。

本年度から始動した国立大学法人の下で、技術部は新たに独立した組織形態で動き出しましたが、これに合わせ研修の企画・運営に関して、技術部主体で行いました。

研修では、学長をはじめとして学内外講師による講演及び実習、技術員によるポスターセッション発表会が行われました。

また、この中で日頃の業務成果等を発表するポスターセッションにおいては、技術部の役割を学内において認識する一環として学内公開の形態で実施しましたが、学内からも多くの参加



ポスターセッション

平成16年度国立大学法人北見工業大学職員研修

(総務企画課)

平成16年度国立大学法人北見工業大学職員研修が8月26日(木)から8月27日(金)までの2日間にわたり、本学屈斜路研修所を会場に実施されました。

この研修は、国立大学法人化後の大学運営の在り方について、講話又は演習を通じて意識改革・資質の向上を図り、専門職能集団としての機能の発揮に資することを目的として今年度から実施され、事務局の係長、主任及び中堅職員を対象とし、事務職員17名が受講しました。

研修では、常本学長を始め、白井理事、札幌



班別討議

国際大学和野内理事長、岩城監事及び柴崎事務局長による講演が行われました。プログラムの最後には、班別討議で活発な意見交換が行われ、

各班の代表者からそれぞれの討議結果について発表がありました。

平成16年度北見工業大学職員英会話研修

(総務企画課)

平成16年度北見工業大学職員英会話研修が8月10日(火)から9月7日(火)までの期間中8回にわたり、本学S C S教室及びA101教室を会場に実施されました。

この研修は、本学における学術等の国際化に伴い、日常の業務において語学の知識、特に英語の会話能力が必要とされるため、事務系職員に基礎的な会話力を修得させることにより円滑な業務の推進を図ることを目的として今年度から実施され、事務職員8名が受講しました。

研修では、国際交流センターの荒谷講師(国際交流コーディネーター)を講師として、毎回、レジュメに基づく日常会話のレッスン及びビデオ教材を視聴してのヒアリングレッスンを行いました。

研修の最終日には、個別のオーラルテスト、全体でのヒアリングテストが実施され、研修の全日程が終了しました。



研修風景

= 国際交流 =

国際ワークショップIWMST2004を開催

(研究協力課)

本学が主催し、電気通信大学と中国の哈尔滨(ハルビン)工程大学が共催して9月2日(木)・3日(金)の両日、本学総合研究棟において国際ワークショップ「International Workshop on Modern Science and Technology 2004 (IWMST2004)」を開催しました。

この国際ワークショップは、本学と電気通信大学及び両大学が国際交流協定を締結している中国の哈尔滨工程大学の3大学が当番大学となり開催しております。

第1回目の哈尔滨工程大学及び第2回目の電

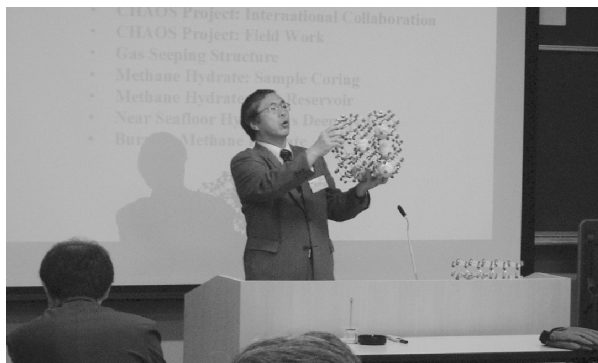
気通信大学に続き、3回目となる今回は共催大学の哈尔滨工程大学から劉志剛学長、電気通信大学から木村忠正副学長が参加されました。

また、今回は、他にも中国の武漢科技大学及び韓国の慶尚大学校工科大学からも、過去最多の約80人の研究者が参加しました。

ワークショップは、初日に本学未利用エネルギー研究センター長庄子仁教授の「The Chaos Project for Methane Hydrate Studies」と題して行われた基調講演から始まり、2日間にわたりオーラルセッションとポスターセッションが

行われました。

セッションは、情報科学、バイオ・材料、エネルギー・環境、社会基盤の4分野について69件の発表が行われ、活発な質疑応答がありました。

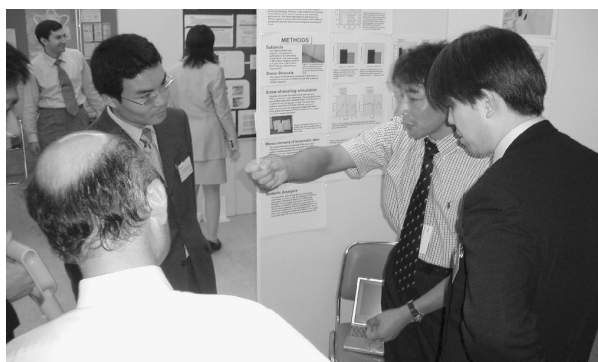


基調講演中の庄子教授

なお、このワークショップは隔年で開催することとなっており、次回は新たに加わった武漢科技大学が当番大学となり、2006年に開催される予定です。



オーラルセッションを熱心に聞き入る参加者



ポスターセッション



レセプションにて

慶尚大学校工科大学との短期交流研修報告

研究協力課国際交流係 栄浪 晋也

本年8月23日から8月30日にかけて7泊8日の日程で、本学と国際交流協定を締結している大韓民国・慶尚大学校工科大学との短期交流研修に学生を引率する立場として参加する機会を与えていただきました。この短期交流研修は今年で5回目を数え、1年ごとに互いの大学を訪れ、今回は本学が慶尚大学校工科大学を訪問する形で行われたものです。参加した学生は学部学生8名（うち女子2名）、大学院生2名の構成で、彼らを引率する教職員は大島副学長と私の2名でした。

集合場所である新千歳空港に10名の学生全員が集合し、大島副学長より海外旅行における諸注意事項について説明を受けた後、我々は14:05分発のコリアンエア766便で韓国へ向かいました。千歳からソウルまでの飛行時間は3時間ほどで、到着予定時刻どおり17:00に無事、仁川国際空港に到着しました。女満別空港を9時30分に発ったことを思えば、本当にアジアは近いというのが、実感です。入国審査を終え、それぞれの荷物をもって空港の外に出ると真夏に逆戻りをしたかのような熱気を感じました。

(こちらに滞在していた時は、ほぼ毎日最高気温が30℃位ありました。)。タクシー4台に私たちは分乗し宿泊先である梨泰院ホテルに向かいましたが、こちらの運転手は、全体的に日本とくらべて運転が荒く、車間距離をあまりとらずに、最高時速160km位で走っていたので、乗っている間は生きた心地がしませんでした。45分程の危険なドライブが終わり、タクシーメーターに表示された金額よりもかなり多くの料金を請求され、ようやくホテルに到着しました。

ホテルにチェックイン後、夕食を求めて宿泊先のホテルに近い焼肉店に足を運びました。その店は日本語が通じ、メニューも日本語が併記され、周りの客も日本人ばかりであり、まさに日本人観光客用の店という感じでした。そこでは焼肉の他にチヂミや石焼ビビンバなどを食べ、味のほうはかなり美味しかったように思いましたが、その分値段も日本と余り変わりなかったようです。食事の後は、夜の繁華街を少し散歩したあと、韓国の水道水は飲料に適さないということを聞いていたので、ミネラルウォーターを買ってホテルに帰りました。

次の日の朝、タクシーで金浦空港に向かい、10:10分発の晋州行きの飛行機に乗りました。1時間程で晋州空港に到着し、慶尚大学校工科大学の方々の出迎えを受けました。大学のバスに乗って15分ほどで大学の正門を通ると左手の建物に「歓迎北見工業大学」の垂れ幕が見え、バスを降りて工科大学の中に入ると、さっそく慶尚大学校の学生を含めて歓迎会が行われました。工科大学長の沈永材教授及び大島副学長の



歓迎会にて

挨拶の後、今回の交流研修に参加する両大学の学生が司会の李知恩さんから紹介を受けました。李知恩さんは工科大学の3年生で、2年間日本に語学留学経験があり、今回の歓迎会及び送別会の司会、全研修日程に通訳として同行していただき、大変お世話になりました。

歓迎会の後は、昼食を挟んで北見市と1985年から姉妹都市提携を結んでいる晋州市の市役所へ晋州市長の表敬訪問に向かいました。市役所に到着後、晋州市の概要を説明するビデオ(日本語で説明)を見ました。晋州市は人口約34万人西部慶南の中心都市であり、シルクと銀粧刀・木工芸品の生産が盛んな街であるとの紹介がありました。ビデオを見た後、市長を表敬訪問しましたが、公務で不在であったため韓副市長が我々と会ってくださり、全員に記念品をいただきました。市役所訪問後、晋州城を見学に向かいました。この城は文禄・慶長の役の際、晋州牧使の金時敏が倭軍を大破し、3大捷戦の一つである「晋州城大捷」を勝ち取った城であり、倭軍との第2次戦闘のおり7万余の民・官・軍兵が最後まで奮戦し、壮絶に散華した忠節の城とのことでした。



晋州城見学中の参加学生

晋州城を後にし、再び大学へ向かい、慶尚大学校の趙武濟総長を表敬訪問しました。趙総長の歓迎の挨拶があり、大学の概要について、慶尚大学校は11の学部と7つの大学院で構成され学生数約2万人、教職員約1,200人の総合大学であるとの説明を受けました。その後、共同実験実習館を見学して初日の予定が終了となりました。学生はそれぞれホームステイ先に向かい、

私と大島副学長は市内の韓国料理店で工科大学長主催の引率者歓迎会に招かれ、大いに盛り上がりました。



慶尚大学校趙武濟総長(左から2人目)と大島副学長との懇談

研修2日目、午前中は工科大学建築学部の高永勳教授の「韓国の建築」に関する講義を受講しました。午後からは、韓国プームの火付け役となったドラマ「冬のソナタ」のロケ地である、外島（ドラマの最終回の最後にペ・ヨンジュンとチェ・ジウが再会する場所）を観光する予定でしたが、台風の影響でフェリーが欠航したため、残念ながら、見学できませんでした。夫妻でこのドラマのファンである大島副学長も大変残念がっていました。そのため予定を変更して市内南部の港から遊覧船にのり、一時間程、船上から見えるきれいな景色を楽しみました。この日の夕食は、晋州の郷土料理である晋州冷麺を食べました。冷麺は元来、北朝鮮固有の食べ物であったが、朝鮮戦争の際に南下した避難民によって広められたとのこと。夕食後、学生たちはホームステイ先へ、大島副学長と私は機械航空工学部の柳教授と一緒に市内の飲食店で2時間程歓談し、食後の運動を兼ねて、ホテルまで30分程かけて歩いて帰りました。

研修3日目、午前9時にバスが大学を出発し慶尚北道の慶州市へ向かいました。慶州は992年間、新羅文化の花を咲かせた土地で数多くの文化遺産が散在しており、仏国寺、石窟庵、国立慶州博物館などを見学しました。見学後の帰りのバスの中では、カラオケで大島副学長及び両大学の学生が自慢の喉を披露し大いに盛り上がり、大学にバスが到着したころには9時を過

ぎていました。学生はホームステイ先へ、大島副学長と私は大学職員の方にホテルへ送ってもらい、この日の研修は終了しました。

研修4日目、午前中は師範大学日本語教育科の安秉坤教授による「韓国の文化」の講義を聴講し、主に日本人と韓国人の名前のルーツや苗字についての話を聞きました。韓国の姓は金、李、朴の3つで約90%を占め、実際に使用されている姓は約500であり、苗字においては99%の人は1文字であるが、それに対し日本人が実際に使っている姓は約12万あるとのことでした。午後からは機械航空工学部の明煥教授の「韓国の産業」を聴講した後、バスで次の見学予定となっているキムチ工場へ向かいました。工場に着くと、実際に自分たちでキムチ作りをするという説明を受け、早速、私たちは2つのグループにわかれ、帽子、マスク、白衣を身につけ従業員の指導を受けながらキムチ作りを体験しました。ここで作ったキムチは各自が家に持ち帰ることになり、よって帰国後も我が家では、毎日キムチを食べる日々が続きました。今回お世話になったこの工場で生産されているキムチは日本にも輸出しているそうです。



キムチ工場で実習中の本学研修生

キムチ工場見学終了後、予定では、ホームステイ先にもどることになっていましたが、本学学生の韓国サウナを体験したい要望を聞き入れていただいたので、慶尚大学校の学生と本学の学生全員がサウナに宿泊することになり、互いの学生の交流は、この夜午前3時半頃まで続いたようです。

研修最終日、9時半にサウナを出発し、午前

中は、市内のEマートとロッテデパートで各自お土産を買い、夜には東邦ホテルで私たちの送別会を催していただきました。工科大学長の沈永材教授から学生ひとりひとりに修了証書が手渡され、大島副学長には記念品が贈られました。本学学生を代表して、今回の参加学生の中で唯一訪韓経験のある、化学システム工学専攻の佐藤元希君から、韓国語でお礼の挨拶がありました。互いの学生は、別れを惜しみながら来年の再会を約束し、たいへん和やかな雰囲気の中に、時間が過ぎていきました。



送別会での記念撮影

5日間の研修が終わり、この日は大学職員の方と学生の車で空港まで送っていただき、9:50分発の金浦空港行きの飛行機でソウルへ向かいました。ソウルに到着し、ホテルに荷物を預け、近くのファーストフード店で昼食を済ませた後は、午後からはいくつかのグループに分かれてソウル市内を自由見学となりました。

この日の自由見学に参加学生の一人である機械システム工学科の川原拓海君から盧成鉄君(2003年10月から今年の8月まで短期留学で機械システム工学科に在籍)にソウル市内を案内してもらえると聞いていましたので、私と学生7人は盧成鉄君と行動をとりました。ソウル繁華街、ロッテワールド、東大門へ行きホテルにもどってきたときには、11時を過ぎていました。翌朝は6時半出発予定なので、すぐに就寝しました。

長かった韓国滞在も最終日を迎えました。朝6時半にホテルのロビーに集合し、バスで仁川空港へ向かいました。全員が出国手続きを終え、10:00発新千歳空港行きのコリアンエア765便にのり、予定より少し遅れましたが無事、新千歳空港に到着しました。ここで、私たちは解散し、この7泊8日の短期交流研修は、終了しました。今回の私の研修参加は参加学生の引率という立場でしたので、事故もなく無事にこの研修を終えることができ、自分の務めは果たせたように思います。来年は、慶尚大学校工科大学の学生を本学が迎えることになりませんが、参加した学生にとって実りある交流研修になるよう、また両校の相互理解及び友好がより一層深まるよう尽力したいと思います。

なお、今回の参加学生代表による研修報告は、今年末発行の本学広報誌「オホーツクスカイ」第2号に掲載予定です。

2004年日本留学フェア(大韓民国)参加報告

国際交流センター講師 荒谷 陽子

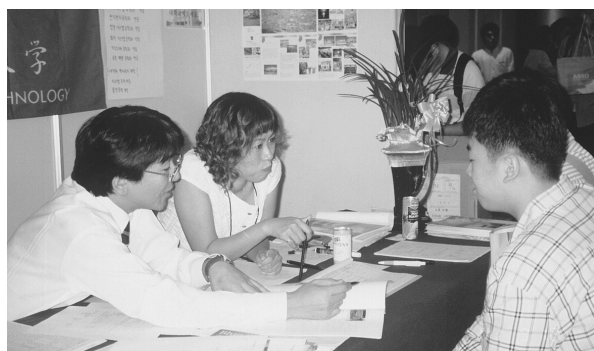
ソウル・釜山二都市で開催

2004年の日本留学フェアは、韓国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアの六カ国で開催されました。日本留学フェアは、参加大学がそれぞれのブースで、留学を希望する学生に、大学の授業内容や留学生受け入れの諸条件について説明を行なうイベントで、毎年アジアの主要都市で開催されています。本学は、一

昨年にベトナム、昨年はタイとベトナムでのフェアに参加しており、今年は初めて韓国でのフェアに鈴木正清情報システム工学科長と、国際交流センターの荒谷が参加しました。会場は釜山とソウルの両市で、それぞれ9月10日、12日に市内の一流ホテルの大ホールを会場に盛大に行なわれました。参加大学は、国立大学24校、公立大学2校、私立大学47校の計73校でした。



本学のブース（釜山会場にて）
左側は通訳のチェさん



熱心に対応する鈴木情報システム工学科長（ソウル会場にて）、右側は通訳のキムさん

ゆっくり、じっくり、たっぷり対応

例年、留学フェアでは7～80人の学生がブースを訪れ、その対応に追われるとのことでしたので、その心積もりで参加しましたが、今回の韓国ではブースの前に長い行列ができるような事態にはなりません。これは、まず来場者の全体数が他国でのフェアよりも少なかったことが原因ですが、その他に考えられる理由としては、韓国では他のアジア諸国に比べ、日本の大学教育に関する情報が入手しやすいため、目当ての大学にあらかじめ絞って来場した学生が多かったと思われることが挙げられます。もう一つは地理的な問題です。国自体がなまじ日本と隣接しているだけに、九州は「近い」、北海道は「遠い」という感覚が根強いことを感じました。

しかし、相談者一人一人に十分に時間をかけることができたのはとても良かったと思います。質問の内容は、入試の選抜方法、授業料、奨学金、住宅事情などに加え、研究分野に関する専門的な質問も極めて多く、内容も多岐にわたっていました。これは、大学院留学を目指す学生、三年次への編入を希望する学生が思いのほか多かったことが一因でしょう。そうした目的意識の強い学生の場合には、一人の相談時間が30分以上に及ぶケースも少なくありませんでした。またその一方では、懸命に言葉を捜しながら片言の日本語で質問をしてくる、まだあどけない顔の高校生もあり、来場者の年齢層の幅が感じられました。

さらなる交流の願い

釜山、ソウルの両方で、大変有能な通訳者に恵まれたことは非常に幸いでした。二人に共通していたのは、とにかく日本が大好きで、そのために日本語をマスターし、現在は語学力を生かして貿易会社で働いているということです。彼女らも言っていました、韓国では日本に対し良い感情を持つ人々とそうでない人々とに大きく分けられるようです。前者は、日本のTV番組、映画、音楽、ファッションに親しみ、見ても次第に日本人と間違われるようになってゆくとのこと。おそらく、彼女らはその典型なのでしょう。

しかし一方では、それと両極をゆく感情を抱く人々もまだまだ多くいるという現実を、しっかり見つめなくてはならないと思います。そして、それを何とかすることができるとすれば、韓国の文化や日韓の歴史に興味を持つ日本人がもっともっと増えることが、欠かせない一歩ではないでしょうか。フェアのオープニングセレモニーで、「いつの日か、韓国留学を目指す日本人学生が増え、日本で韓国留学フェアが開かれることを願っている」という一言がありました。韓国の空港、レストラン、ホテルなどいたるところで、流暢な日本語を話す韓国人がいかにも多いかにも、考えさせられるものがあります。本学のブースを訪れた学生の中から一人でも、本学に留学してくれたらいいなという思いと共に、二国間の興味と関心が、バランスの取れた両方向の矢印となってゆくことを願わずにいられない今回の経験でした。

2004年外国人学生のための進学説明会に参加して

国際交流センター講師 菅野 亨
 入試課 入学試験係 土井 将義

2004年外国人学生のための進学説明会（以後、進学説明会）が、東京池袋のサンシャインシティ文化会館において、9月5日（日）、午前10時から午後4時まで開催されました。本年の進学説明会は昨年までの日本国際教育協会に代わり、国立大学の法人化と同様、日本育英会の奨学事業や日本国際教育協会・内外学生センター・国際学友会・関西国際学友会の留学生交流事業、並びに国が実施してきた学生支援事業を整理・統合し、総合的な学生支援事業を実施するために平成16年度より新しく誕生した「独立行政法人 日本学生支援機構」主催によるものでした。例年と同様本学ブースを開設し、私どもと情報システム工学科4年の張 明さんが、学生への個別説明・対応にあたりました。参加教育機関数は、182大学・短期大学、その他2機関であり、各教育機関の個別ブースのほかに、学校選択、在留資格、入学試験等の個別相談コーナー、各国の留学生会コーナー、入学資料コーナーが開設されていました。来場者数は、昨年より400名少ない3967名であり、また本学ブースを訪れた進学希望者（以下学生）も昨年より3名少ない45名と過去5年間で初めて前年を下回りました。（図1）この一因は進学希望者の減少ではなく、インターネット等で情報を得る他の機会が増加したということでしょう。

本学ブースを訪れた学生のすべては、日本語



開場を待つ進学希望者

学校あるいは専門学校に通って進学の準備をしている方々でした。国・地域別では、中国が39名で、台湾、マレーシア、インドネシアの方が各2名でした。分野別では、電気電子、情報系が多く、ついで、機械、土木、化学・材料系という順でした。また大学院志望の方は2名のみでした。対応した学生数は昨年よりわずかに減少しましたが、張 明さんの中国語での丁寧な対応の結果、1人1人の面談時間が長く、それだけ中身が濃くゆっくりと話を聞き説明もできたと感じています。

本学学部入学には、日本留学試験の日本語、数学（コース2）、理科（物理及び化学）を受験することが必要ですが、本学受験の利点として、日本留学試験のほかには本学独自の筆記試験、面接試験（二次試験）がなく、日本留学試

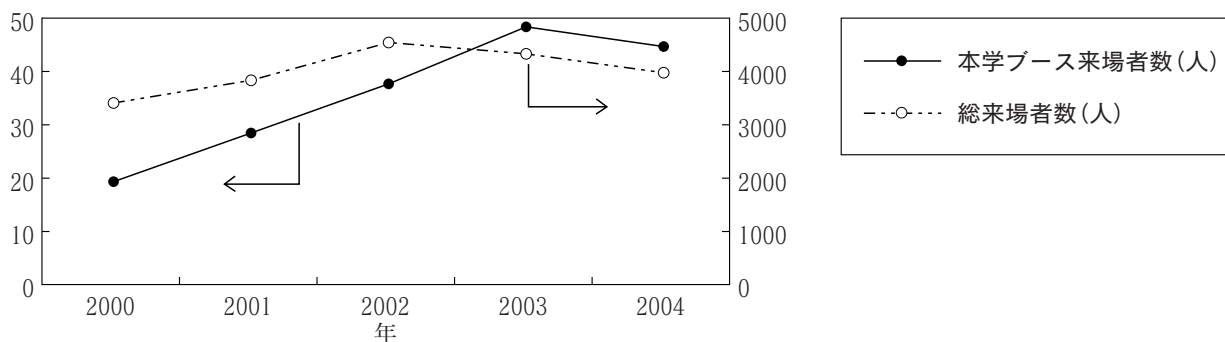


図1. 進学説明会来場者数の推移

験及び推薦書、学業成績証明書の書類選考のみで入学許可が与えられることを強調しました。質問の多くは教育・研究分野だけでなく、学生生活に関わる、奨学金、授業料免除、住居、アルバイトに関するものでした。

本学における日本留学試験（4年前までは私費外国人留学生統一試験）受験を経て入学した学部学生は、張明さんをはじめ、3年生2名、2年生4名、1年生8名と年々増加し、彼らの多くはこの進学説明会に参加した人であり、学生受け入れ数の増加という観点から本学にとってブースを開設する意義は大きいと思われます。しかし、“留学生10万人計画”を達成した現在、我が国の“量より質”への政策・施策転換が明確になっており、来年以降は留学生受け入れの転換期をむかえることが予想されます。

本学は独自の奨学金・貸与金制度、国際交流会館の建設等で留学生への学業及び生活支援体制の充実・向上に努めており、さらなる向上に向けて私どもも微力ですが貢献できることを願っております。



本学ブースにおける個別面談

＝諸報＝

学長選考会議を設置

(総務企画課)

4月1日から国立大学法人北見工業大学としてスタートして、初めての学長選考会議が、9月10日（金）午後4時から開催されました。

会議では議長選出の後、国立大学法人北見工

業大学学長選考会議規程（31頁参照）及び国立大学法人北見工業大学学長選考規程（32頁参照）について、審議が行われました。

学長選考会議委員は次のとおりです。

氏名	所属等	経営協議会代表/教育研究評議会代表/役員
丹保 憲仁	放送大学長	経営協議会代表
◎梶谷 誠	国立大学法人信州大学監事	経営協議会代表
熊谷 秀男	東京電波(株)代表取締役社長	経営協議会代表
中神銑三郎	北見商工会議所会頭	経営協議会代表
大島 俊之	北見工業大学副学長	教育研究評議会代表
佐々木克孝	北見工業大学副学長	教育研究評議会代表
青木 清	北見工業大学機器分析センター長	教育研究評議会代表
海老江邦雄	北見工業大学土木開発工学科長	教育研究評議会代表
鮎田 耕一	国立大学法人北見工業大学理事	役員
高橋 信夫	国立大学法人北見工業大学理事	役員
白井 達郎	国立大学法人北見工業大学理事	役員

◎印は議長

全学説明会「法人後6ヶ月と大学が目指す目標の共有を」の開催

(総務企画課)

9月22日(水)午後3時からC122講義室において、「法人後6ヶ月と大学が目指す目標の共有を」と題した全学説明会が開催されました。説明会には、約100人の教職員の参加があり、

常本学長から、国立大学が法人化して約半年が経過した学内外の動向、本学が目指す目標設定、評価制度等について説明の後、活発な意見交換が行われました。



熱心に聞き入る参加者



質疑に答える常本学長

平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)の採択

(教務課)

このほど文部科学省に申請していた、平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)が採択されました。

本取組は、開発済みのe-ラーニングシステムをさらに機能アップした統合型Uラーニングシステム(Ubiquitous learning system)を開発し、オンデマンド型並びにストリーミング型の学習による本学学生及び地域の技術者の資格試験講習・技術向上を図る実践的な教育支援のシステム「ITによる地域活性化教育支援システム」の構築を目指しています。

また、このシステムは、生涯教育システムと

しても活用でき、広く地域社会の情報リテラシー教育を推進することとなり、それらのコンテンツ開発、並びに受講者の教育支援などに本学学生も積極的に携わることとなり、学生の地域への密着度が深まるとともに地域企業への就職の可能性も拡大すると考えられます。

具体的には、開発した統合型Uラーニングシステムを使用し、「e-資格対策支援プログラム」、「e-技能修得支援プログラム」及び「e-生きがい創生支援プログラム」の3つのプログラムによって、経済が停滞しているオホーツク圏の地域活性化に貢献することを目指しています。

e-学生・技術者・市民とのまちづくり支援プログラム

ユビキタス時代(Uの時代)の技能伝承

北見工業大学

統合型 U-ラーニングシステムの構築

(ストリーミング+オンデマンド)

(大学所有)

(新規導入)

オンデマンド型
e-ラーニングシステム(Kensy)

+

テレコンファレンスシステム

情報系高等教育

システム化、コンテンツ開発、資格の取得

e-資格対策支援プログラム

Java認定プログラマ、情報処理技術者、情報セキュリティアドミニストレータ etc

e-技能修得支援プログラム

玉がけ、アーク溶接
ガス溶接、etc

e-生きがい創生支援プログラム

コンピュータリテラシー教育
SOHO起業基礎教育

実学教育

技能、資格を身につけた
即戦力の卒業生輩出

情緒教育

北の文化とともに心豊かに
ボランティア精神の育成

地域社会

職能開発でまちづくり

対象：社会人、学生
安全と卓越した技能の伝承
雇用のビジネス マッチングの促進

IT技術者でまちづくり

対象：IT技術者、住民
オホーツクデータセンター構想
電子自治体に対応した技術者養成

北の知恵袋でまちづくり

対象：高齢者、主婦
子育て、郷土料理、氷・雪害対策
農業、漁業、建築、歴史、地理



携帯電話が
安全マニュアル
作業手順書



・地域貢献型SOHOの育成
・ネットワーク化
(e-知恵袋ネットワーク)

e-学生が定着するまちづくり



携帯電話
でお袋の味

携帯電話が
おばあちゃん



e-ビジネスで地域型新産業の創出

大学等開放推進事業「おもしろ科学実験」を実施

(総務企画課)

楽しい実験やもの作りを通じて子供達に科学の魅力を知ってもらうことを目的として、去る8月7日(土)、平成16年度の大学等開放推進事業「おもしろ科学実験」が実施されました。

「おもしろ科学実験」は、平成12年度から毎回好評を得て実施しており、5回目を数える今回は、技術部からの参加協力が得られ16テーマで実施されました。

当日は34℃を超える厳しい暑さのなか、体育館を会場として、午前10時及び午後2時からの2回行われ、網走管内の小・中学校73校から432名の参加があり、この中には近隣町村にふるさと留学中の本州の小学校からの参加者もありました。

子供達は実験テーマ別に分かれ、本学教職員から実験の説明や学生の指導のもと、真剣な眼差しで2時間あまりの実験に取り組み、実験終了後は、テーマ責任者から授与された修了証書を手し、短い夏休みの一日を「一日科学者」として満喫した様子でした。



暑さ対策として会場に氷柱を設置



ポンポン蒸気船を走らせてみる子供達



やった！ 点いた！

■実験テーマ■

機械システム工学科
音を作って遊ぼう
紙飛行機から学ぶ飛行のしくみ
①流水のスタンドグラス ②熱を目で見よう
ポンポン蒸気船を作ってみよう
電気電子工学科
まほうのランプ
線を追っかけて走るロボットを作ろう
情報システム工学科
コンピュータでロボットを動かしてみよう！
ゲームマシンもりっばなコンピュータなのだ!!
虹を作ろう
化学システム工学科
生命の設計図を見る！触る！
ーサケの白子からのDNA抽出ー
機能材料工学科
スライムを作ろう
サッカーボール(フラーレン)を折り紙で作ろう
土木開発工学科
石の硬(かた)さを測(はか)ろう
アーチ橋のひみつ
アイス・マジック～水が一瞬で氷に変わる！
技術部
紙コップスピーカーを作ろう

科学研究費補助金説明会を開催

(研究協力課)

8月6日(金)、独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成課長 長澤 公洋氏を招き、科学研究費補助金説明会を開催しました。

科学研究費補助金は平成16年度から大幅な制度改正が行われており、同補助金制度の正しい理解と適正な執行の一助とすべく今回の説明会が企画されました。

当日は、学長挨拶の後、長澤研究助成課長から科学研究費補助金の概要、予算執行上の留意事項、申請に当たっての留意事項、配分審査等について具体例を交えた詳細な説明が行われました。

説明会には教員と事務職員約50名が参加し、

説明の後には活発な質疑応答が行われました。



長澤研究助成課長から説明を受ける教職員

知的財産セミナーを開催

(研究協力課)

去る8月31日(火)、教職員を対象として、西澤国際特許事務所長の西澤利夫氏による知的財産セミナーを開催しました。

西澤氏は「大学における特許出願と共同研究開発」と題して、特許制度の概略から企業との共同研究を行う場合の考慮すべきこと、最近の特許をとりまく情勢や事例紹介等わかりやすく講演を頂きました。

出席した教職員からは、多くの質問が出され、法人化以降の国立大学における知的財産権の考え方を基礎から学ぶ機会となり、より意識の高いものとなった意義のある講演会となりました。

なお、12月21日には再び西澤氏を講師にお

迎えしてより実践に近い形での第2弾の特許セミナーを開催する予定です。



講演中の西澤国際特許事務所長

平成15年度「ベストティーチング賞」・「エクセレントプログラム賞」表彰式を挙

(教 務 課)

平成15年度に実施した学生による授業評価の結果、授業への準備、指導、熱意等に顕著な教員7名（各学科6名、共通講座1名）に「ベストティーチング賞」を、また、新たに「エクセレントプログラム賞」を新設し、授業や教材などの工夫により教育改善に高い効果をあげている教員・グループのうち3グループが表彰されました。

表彰式は8月23日（月）に行われ、それぞれの受賞者とグループ代表者に学長からのねぎらいの言葉の後、一人一人に記念品が授与されました。

なお、受賞された教員及びグループは、右のとおりです。

「ベストティーチング賞」

機械システム工学科 教授	佐々木正史
電気電子工学科 助教授	川村 武
情報システム工学科 助教授	吉田 秀樹
化学システム工学科 教授	多田 旭男
機能材料工学科 助教授	南 尚嗣
土木開発工学科 教授	鮎田 耕一
共通講座 助教授	山田 健二

「エクセレントプログラム賞」

機械システム工学科教授、助教授一同
情報システム工学科リテラシー教育実行委員会
機能材料工学科 射水雄三、山田洋文



学長を中央に「平成15年度ベストティーチング賞」・「エクセレントプログラム賞」受賞者

地元高校とSPP事業を継続実施

(教務課)

昨年に引き続き、8月2日(月)～4日(水)の3日間に渡り、文部科学省のサイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)事業による北見北斗高等学校との教育連携講座が実施されました。

3日間とも北見北斗高等学校理数コースの1・2年生を中心に19名を大学に招いて1日目、2日目は2班に分かれて講義及び実験、最終日は講義の後、近隣のゼオライト鉱床を見学しました。

今回のテーマは、「魅力的な機能性物質ーゼオライトー」で、高橋信夫教授(副学長、教務・学生担当)が中心となって講義等を実施したものです。

高校生たちは、ゼオライトが我々の生活の中で役立っていることを理解し、地質学的な観点からも興味や関心を高めることができました。



鉱床を見学する高校生たち

父母懇談会(秋季・名古屋)を開催

(教務課)

父母懇談会(秋季)を、本年度は春季(札幌)と秋季(北見)の他に新たに9月12日(日)名古屋市内を会場として、大学院博士後期課程を除く全学生の保護者で中部以西に在住の父母等を対象として拡大開催しました。

名古屋で初めてとなる開催は、105組147人の父母が参加し、常本学長の挨拶及び法人化後の大学概要等、同窓会会長から同窓会活動の現状、高橋副学長から学生の履修内容や生活状況に関する説明に続いて、各学科、専攻に分かれ

て個別面談が行われました。

個別面談では、各学科の教員が対応し、修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

また、個別面談までの待ち時間には常本学長、高橋副学長による父母との質疑等の時間が設けられ、父母からは大学院進学及び就職に向けての諸問題など、多くの質問等が出され活発な意見交換が行われました。



全体説明会において挨拶する常本学長



同窓会活動について説明する吉村同窓会会長

北海道進学コンソーシアム大学進学説明会を開催

(入試課)

9月11日(土)、河合塾名駅キャンパス(名古屋市)において、北海道進学コンソーシアム大学進学説明会が開催されました。

北海道進学コンソーシアムは北海道内の国公立大学が協力して入試広報を行うことを目的として昨年設立され、現在10大学(北海道大、北海道教育大、室蘭工業大、小樽商科大、帯広畜産大、旭川医科大、北見工業大、釧路公立大、公立はこだて未来大、札幌医科大)で組織されています。

今回の進学説明会は、北海道への大学進学者が比較的多い東海地方の高校生等に対し、各大学のPRはもとより、北海道の魅力をも伝えることとし、参加10大学のリレートーク、ブースでの個別面談の形式で行われました。

本説明会は、北海道進学コンソーシアムが実施する初めての事業であり、問題点もいくつかありましたが、今後検討される様々な広報事業に期待が寄せられます。



個別面談



リレートーク

北友会主催スポーツ大会・夏祭り

(北友会実行委員会)

例年恒例となっております、北友会主催スポーツ大会と夏祭りが7月下旬から8月上旬にかけて行われました。

スポーツ大会は、7月26日(月)から7月30(金)までの日程でミニバレーが行われました。

昨年までは、参加者の年齢によってA・Bのブロックに別れていましたが、今年から1ブロックに統一され、年長者も新人も一緒になってより豪華となった賞品を目指して競うこととなりました。



白熱したゲームとなったミニバレー決勝戦

結果は、以下のとおりです。

優勝	K I Tマシーンズ	(機械システム工学科)
準優勝	財務課A	(財務課)
第3位	t e c h A	(技術部)
第4位	市Chan's	(総務企画課)

夏祭りは8月4日(水)に開催されました。猛暑が続いた今年の夏ですが、当日も晴天に恵まれ、日中は30度を超える暑さの中での開催となりました。

北友会会長である学長の挨拶のあと、スポーツ大会の表彰式があり、子供じゃんけん大会、ビンゴゲーム、ウーロン茶早飲み競争、ウォーターリレーと、教職員の家族を交え恒例となっているゲームを楽しみました。

暑さのせいか、担当者が追加注文するほど飲み物の消費も多く、教職員和気藹々とした中で親睦を深めました。



子供じゃんけん大会 (夏祭り)



ウーロン茶早飲み競争 (夏祭り)

＝規程＝

北見工業大学工学部核燃料物質計量管理規程

平成16年8月31日
北工大達第169号

(目的)

第1条 この規程は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法律」という。）第61条の8第1項の規定に基づいて北見工業大学工学部（以下「本学部」という。）における法律第61条の3第1項の規定に定める国際規制物資の使用の承認（法律第76条に基づく。）を得た全ての核燃料物質の計量及び管理（以下「計量管理」という。）に関する事項を定め、もって核燃料物質の適正な計量管理を確保することを目的とする。

(計量管理責任者)

第2条 本学部における核燃料物質の計量管理のために計量管理責任者を置くものとする。

2 本学部における計量管理は、計量管理責任者の責任のもとに行う。

3 本学部における計量管理責任者は、機器分析センター長とする。

(核燃料物質計量管理区域の設定)

第3条 本学部における核燃料物質計量管理区域（以下「MBA」という。）は、本学部全体をもって設定し、計量管理はこのMBAを基礎として行う。

2 本学部のMBAの符号は、KSKVとする。

(受入れ、払出し及び廃棄に関する手続)

第4条 計量管理責任者は、核燃料物質の受入れ、払出し及び廃棄に立会い、当該受入れ、払出し又は廃棄の数量をその都度記録するものとする。

(消費、損失等に関する手続)

第5条 計量管理責任者は、消費、損失等により核燃料物質の増減が生じた場合には、当該増減の数量を月1回記録するものとする。

(事故損失に関する手続)

第6条 計量管理責任者は、事故により核燃料物質の損失が生じたとき又は生じたとみなされたときは、その都度数量を確定し、記録するものとする。

(記録)

第7条 計量管理責任者は、第4条、第5条並びに第6条の記録を作成し、作成後10年間本学部に保存するものとする。

2 前項の記録には次の各号に定める事項を記録するものとする。

- 一 在庫変動の日付
- 二 在庫変動の原因又は理由
- 三 受入れ又は払出し事業所名及びMBAの符号
- 四 供給当事国（日米協定の新旧の区分を含む。）
- 五 核燃料物質の種類
- 六 核燃料物質の数量

第8条 計量管理責任者は、供給当事国ごとの核燃料物質の種類別の在庫量に関する記録を毎月1回作成し、作成後10年間本学部に保存するものとする。

(報告)

第9条 計量管理責任者は、法律第67条第1項及び国際規制物資の使用等に関する規則第7条第19

項の規定に基づく毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間の報告書が当該期間の経過後1ヵ月以内に文部科学大臣へ提出されていることを確認するものとする。

附 則

この規程は、文部科学大臣から制定について承認を受けた日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

制定理由

国立大学法人北見工業大学の設立及び北見工業大学の設置に伴う所要の制定

北見工業大学教務委員会規程の一部を改正する規程

平成16年9月1日
北工大達第170号

北見工業大学教務委員会規程（平成16年北工大達第59号）の一部を次のように改正する。

第3条中「委員会は、」の次に「学部及び大学院に係る」を加え、同条第2号中「教育指導」の次に「及び研究指導」を加え、同条第3号中「学則第37条第5号及び第6号」の次に「並びに大学院規程第28条第5号及び第6号」を加える。

附 則

この規程は、平成16年9月1日から施行する。

改正理由

審議機関の変更に伴う所要の改正

北見工業大学学生委員会規程の一部を改正する規程

平成16年9月1日
北工大達第171号

北見工業大学学生委員会規程（平成16年北工大達第76号）の一部を次のように改正する。

第3条中「委員会は、」の次に「学部及び大学院に係る」を加える。

附 則

この規程は、平成16年9月1日から施行する。

改正理由

審議機関の変更に伴う所要の改正

北見工業大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程

平成16年9月1日
北工大達第172号

北見工業大学入学者選抜委員会規程（平成16年北工大達第93号）の一部を次のように改正する。

第3条中「委員会は、」の次に「学部及び大学院に係る」を加える。

附 則

この規程は、平成16年9月1日から施行する。

改正理由

審議機関の変更に伴う所要の改正

国立大学法人北見工業大学学長選考会議規程

平成16年9月10日
北工大達第173号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人法（平成15年法律第112号。以下「法人法」という。）第12条の規定に基づき、国立大学法人北見工業大学学長選考会議（以下「選考会議」という。）の議事の手続その他選考会議に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 選考会議は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- 一 国立大学法人北見工業大学経営協議会規程（平成16年北工大達第4号）第2条第1項第4号に掲げる委員のうちから経営協議会において選出された者 4人
 - 二 国立大学法人北見工業大学教育研究評議会規程（平成16年北工大達第5号）第2条第3号から第11号までに掲げる委員のうちから教育研究評議会において選出された者 4人
 - 三 選考会議の議に基づき第5条に規定する議長が指名する理事 3人
- 2 委員が学長候補者となったときは、委員を辞任するものとし、前項第3号の委員を除き、その欠員は、速やかに補充するものとする。

(審議事項)

第3条 選考会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学長候補者の選考に関する事項
- 二 学長の任期に関する事項
- 三 学長の解任に関する事項
- 四 選考会議に関し必要な事項

(任期)

第4条 委員の任期は、それぞれ経営協議会、教育研究評議会又は理事としての任期と同一とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(議長)

第5条 選考会議に議長を置き、委員の互選により決定する。

- 2 議長は、選考会議を主宰する。
- 3 議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 選考会議は、委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 選考会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 選考会議は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第8条 選考会議の庶務は、総務企画課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、選考会議に関し必要な事項は、選考会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年9月10日から施行する。

制定理由

国立大学法人北見工業大学の設立に伴う国立大学法人北見工業大学学長選考会議を新たに設置するための所要の制定

国立大学法人北見工業大学学長選考規程

平成16年9月10日
北工大達第174号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人北見工業大学長の選考等に関し必要な事項を定めるものとする。
(選考基準)

第2条 学長候補者は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者でなければならない。
(選考時期)

第3条 国立大学法人北見工業大学学長選考会議規程（平成16年北工大達第173号）に基づく国立大学法人北見工業大学学長選考会議（以下「選考会議」という。）は、次の各号の一に該当する場合に学長候補者の選考を行う。

- 一 学長の任期が満了するとき。
- 二 学長が辞任を申し出たとき。
- 三 学長が欠員となったとき。

2 学長候補者の選考は、前項第1号に該当する場合にあっては任期満了の日の3月前までに、同項第2号又は第3号に該当する場合にあっては速やかに、これを開始するものとする。

(学長の任期)

第4条 学長の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、再任された場合の任期は2年とし、引き続き6年を超えて在任することはできない。

(学長候補者)

第5条 選考会議は、次に掲げる者を学長候補者とするものとする。

- 一 選考会議の委員から推薦を受けた者
- 二 選考会議が、5人以上の専任の教授、助教授、講師及び助手から推薦を受けた者
- 三 選考会議が、自ら学長候補者となることの申出を受けた者

(学長候補者の推薦手続)

第6条 選考会議は、推薦に必要な事項について公示するものとする。

2 学長候補者の推薦は、別に定める履歴及び所信等を明らかにした書面に、学長候補者となる者の同意書及び推薦者名簿を添付の上、公示後15日以内に行うものとする。

(学長候補者の絞込み)

第7条 選考会議は、学長候補者が4人以上の場合は、原則として学長候補者の絞込みを行うもの

とする。

(意向聴取)

第8条 選考会議は、前2条の推薦及び絞込みを行った後の学長候補者の選考に際し、次の各号の一に該当する者による投票により意向聴取を行う。

- 一 学長
- 二 常勤の理事
- 三 専任の教授、助教授、講師及び助手
- 四 係長相当職以上の職員

(学長候補者の決定)

第9条 選考会議は、意向聴取の結果も参考に学長候補者を決定するものとする。

(文部科学大臣への申出)

第10条 選考会議は、前項による学長候補者の決定に際し、当該学長候補者から学長就任への意思を確認した上で、文部科学大臣に申し出るものとする。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、学長の選考に関し必要な事項は、選考会議が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年9月10日から施行する。
- 2 国立大学法人法（平成15年法律第112号）附則第2条第4項の規定により最初に任命されたものとされる学長の任期は、第4条の規定にかかわらず、同法附則第2条第4項の規定により、平成18年3月31日までとする。この場合において、第4条ただし書中「6年」とあるのは、平成16年4月1日前の北見工業大学長としての任期を含むものとする。

制定理由

国立大学法人北見工業大学の設立に伴う、国立大学法人北見工業大学長の選考等に関し必要な事項を定めるための所要の制定

国立大学法人北見工業大学役員給与規程の一部を改正する規程

平成16年9月10日
北工大達第175号

国立大学法人北見工業大学役員給与規程（平成16年北工大達第125号）の一部を次のように改正する。

第7条第3項中「文部科学省国立大学法人評価委員会が行う業績評価の結果を参考にして、その額の100分に10の範囲内で」を「役員としての業績に応じ、」に改める。

附 則

この規程は、平成16年9月10日から施行する。

改正理由

「役員報酬規程等に関する国立大学法人評価委員会の審議等における主な論点について」（平成16年6月8日付け16文科人第87号文部科学省大臣官房人事課長通知）に基づく所要の改正

= 日誌 =

(総務企画課)

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 8月2日 | 企画運営会議
平成16年度サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業 教育連携講座 (～4日) | 9月1日 | 第7回教育研究評議会
広報委員会 |
| 3日 | 附属図書館委員会 | 2日 | 国際ワークショップ International Workshop on Modern Science and Technology 2004 (～3日) |
| 4日 | 北友会夏祭り | 5日 | 外国人留学生のための進学説明会 (東京) |
| 5日 | 夏期休業日 (～9月24日)
地域共同研究センター推進協議会 | 7日 | 入学者選抜委員会 |
| 6日 | 科学研究費補助金説明会
地域共同研究センター話題提供会 | 8日 | 第4回教授会
平成16年度秋期・平成17年度大学院博士前期課程・博士後期課程入学試験合格発表 |
| 7日 | 大学等開放推進事業おもしろ科学実験 | 10日 | 第4回経営協議会
第8回役員会
第1回学長選考会議 |
| 9日 | 地学連携フォーラム | | 日本留学フェア (大韓民国) (～12日) |
| 10日 | 平成16年度職員英会話研修 (～9月7日) | 12日 | 父母懇談会 (秋季・名古屋) |
| 16日 | 発明審査委員会 | 17日 | 平成16年度9月期学位記授与式 |
| 19日 | 平成16年度技術部技術員研修 (～20日)
第20回北海道地区大学保健管理業務職員研修会 (～20日) | 21日 | 教務委員会 |
| 20日 | 北海道中小企業家同友会オホーツク支部との連携プログラム委員会 | 29日 | 安全衛生委員会
平成16年度第1回公開講座 (～30日)
平成16年度第2回公開講座 (～10月8日) |
| 21日 | 第40回全国国立工業大学柔剣道大会 (～22日) | 30日 | 第2回就職セミナー |
| 23日 | 平成16年度秋期・平成17年度大学院博士前期課程入学試験 (～24日)
慶尚大学校工科大学との短期交流研修 (大韓民国) (～30日)
平成15年度ベストティーチング賞・エクセレントプログラム賞表彰式 | | |
| 24日 | 外国人留学生見学旅行 (～25日) | | |
| 25日 | 平成16年度秋期・平成17年度大学院博士後期課程入学試験
安全衛生委員会 | | |
| 26日 | 平成16年度職員研修 (～27日)
発明審査委員会 | | |
| 31日 | 企画運営会議
教務委員会
知的財産セミナー | | |

寒冷地工学が地球を救うって、本当ですか。



本当です。
さわやかな風が吹く北の大地に
世界で有数の、寒冷地工学の先進地があります。
北見工業大学ではメタンハイドレートや流氷科学など
寒冷地工学に関する、さまざまな教育と研究を行っています。



日本最北の
国立大学

国立大学法人

北見工業大学

工学部	機械システム工学科	化学システム工学科
	電気電子工学科	機能材料工学科
	情報システム工学科	土木開発工学科

(大学院)工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
お問い合わせ ☎0157-26-9167 <http://www.kitami-it.ac.jp/>



本年7月に札幌市営地下鉄車内に掲示された入試広告ポスター

北見工業大学学報 第205号 平成16年9月発行

国立大学法人北見工業大学

事務局総務企画課

〒090-8507 北見市公園町165番地

TEL: (0157) 26-9116

FAX: (0157) 26-9122

E-mail: soumu05@desk.kitami-it.ac.jp

本報は、インターネットでもご覧いただけます。

<http://www.kitami-it.ac.jp/issue/gakho.htm>



再生紙使用